

二〇二三年 神戸大本番レベル模試 国語

解答・解説・採点基準

全3問 100分 150点満点

一 (80点)

〈現代文 安藤礼二『東方哲学』の樹立に向けて〉

解答

問一 折口にとって「古代」とは、そこで始原の時間と空間が再生される眼前の場であり、今も修験の徒により伝統的な芸能として演じられている祝祭の場そのものであるという。こと。(八〇字)

問二 汚れた人間的な「心」を洗い清めて覚りの境地に到達することで、全ての人間が超人的な意識を持つ無限の存在としての如来となる可能性を孕んでいるという「如来蔵」の哲学。(八〇字)

問三 超人間的な如来としての「意識」は人間的な「心」の奥底に開かれるもので、それを清め無化することで出現する、消滅の「空」ではない生成の「空」こそが始まりとなるから。(八〇字)

問四 一切の有限な存在が森羅万象を生成する無限な存在へと至りうると説く「如来蔵」の真理を、鈴木大拙は仏教的「靈性」、折口信夫は神道的「憑依」に結びつけ、両者が重なり合う地点に立って、ギリシア哲学の起源にディオニソスの「憑依」を位置づけた井筒俊彦が、ギリシアのアイデアとイスラームの神をそれと等置して「東方哲学」として総合した。(二六〇字)

問五

- (a) 果敢
- (b) 鍛
- (c) 潮流
- (d) 膨大 (彪大・彪大)
- (e) 陶醉

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「Xという内容(？点)」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**？点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない(Yの欠けによって失点しているの、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 14点満点

1. 「始原の時間と空間が再生される」という内容(4点)
 - * ほぼ本文の記述をなぞっている。
 - * 「時間」「空間」のいずれかを欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は**2点**とする。
2. 「眼前の場であり」という内容(3点)
 - * 本文の「いまここで」に対応する説明。「いまここ(で)」をそのまま使っても可。
3. 「修験の徒により伝統的な芸能として演じられている」という内容(4点)
 - * 「修験(の徒)」「伝統的」「芸能」がキーワード。それぞれ**2点**、**1点**、**1点**として加点していく。
4. 「祝祭の場そのもの」という内容(3点)
 - * 折口にとっては「芸能」の演じられる「祝祭の場」「古代」があるというニュアンスが読み取れば可。
 - * 原則的な文末形式は「…こと」であるが、答案全体が折口信夫にとっての「古代」の意味の説明になっているなら許容。
 - * 三九字以下のものは全体不可。

問二 14点満点

1. 「汚れた人間的な「心」を洗い清めて」という内容(2点)
 - * 本文は「人間的な汚れに染まった「心」となっている。もちろんこのままでもよい。
2. 「覚りの境地に到達する」という内容(2点)

3. 「…に到達する」は「…に達する・至る」「…を得る・獲得する」などでも可。
* 示されているか否かで判定。

4. 「超人的な意識を持つ無限の存在としての如来となる可能性を孕んでいる」という内容(6点)
* 目安は「超人的な意識を持つ」「無限の存在」「如来となる可能性を孕んでいる」を各2点として加算する。

5. 「如来蔵」の哲学」という内容(2点)

* 示されているか否かで判定。

- * 「認識の基盤」の説明となっていると判断できれば、「…もの・こと・哲学」など許容。文末形式が不適切と判断される場合は1点減点。

* 三九字以下のものは全体不可。

問三 14点満点

1. 「超人的な如来としての「意識」は」という内容(3点)

* 如来の「意識」が超人的であることの説明があればよい。

* 説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

2. 「人間的な「心」の奥底に開かれる」という内容(4点)

* 説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

3. 「それを清め無化することで出現する」という内容(3点)

* 「清め」と「無化」のいずれか一つだけの場合は2点とする。

4. 「消滅の「空」ではない生成の「空」こそが始まりとなる」という内容(4点)

* 説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

- * 「…ので・から」「…という理由()による()」など理由説明の文末形式になっていればよい。不適切であると判断される場合は1点減点。

* 三九字以下のものは全体不可。

問四 28点満点

1. 「一切の有限な存在が森羅万象を生成する無限な存在へと至りうると説く」という内容(5点)
* 説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

2. 「如来蔵」の真理」という内容(2点)

* 「如来蔵」という語は必須。

* 「真理」は「哲学・教え・考え方」などでも可。

3. 「鈴木大拙は仏教的「靈性」という内容(3点)

* 「仏教的」がなければ2点。

4. 「折口信夫は神道的「憑依」という内容（3点）

* 「神道的」がなければ2点。

5. 「両者が重なり合う地点に立って」という内容（3点）

* 井筒俊彦の思想が、鈴木大拙と折口信夫の思想を前提として成立しているというニュアンスが読み取れればよい。

6. 「ギリシア哲学の起源にディオニュソスの「憑依」を位置づけた井筒俊彦」という内容（5点）

* 「ディオニュソス」という語がなければ3点。

* 説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

7. 「ギリシアのイデアとイスラームの神をそれと等置して」という内容（4点）

* 「等値して」は「等しいものとして」「同等のものとして」などでも可。

8. 「『東方哲学』として総合した」という内容（3点）

* 「『東方哲学』」という語がなければ0点。

* 文末表現は、答案が設問の要求に見合った説明の形になっていれば許容。

* 七九字以下のものは全体不可。

問五 各2点 計10点

(a) 果敢

(b) 鍛

(c) 潮流

(d) 膨大（彪大・彪大）

(e) 陶醉

* 部分点なし。

二 (40点)

古文 鴨長明『無名抄』

解答

問一

- ① 当然のことだけれど
- ② 世にその名が知れ渡っているのに
- ③ 必ずいらっしゃってお聞きください

問二

a

問三

田を作るのに、草を薙り取って土に混ぜ込むと稲がよく実るといって、名高い山吹を薙り取ってしまったこと。(五〇字)

問四

すぐさま行動に移した登蓮に比べ、自分は年老いて足が不自由なのを理由に、話に聞いた井手の蛙の声を聞きに出かけないまま三年を過ごすほど、風流心が衰えているから。(七八字)

問五

ハ

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一 各3点満点 計9点満点

① 3点満点

1. 「ことわりなれ」を「当然のことだ」の意味に訳していなければ、2点減点。

* 同意例：「当然だ・もつともだ・道理だ・当たり前だ」など常識的範囲内なことがわかれば可。

2. 「ど」を「けれど」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 逆接の接続助詞：同意例：「が・けれども・のに・ものの」など

* 真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問。

* 字数制限無し。文末表現・句読点は不問。

② 3点満点

1. 「名に流れ」を「世にその名が知れ渡る」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 同意例：「(世間で) 名声が広まる・有名である・評判である・名が知れる・評判が広まる」など

2. 「たる」を「ている」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 存続の助動詞：同意例：「である」など

* 完了「くた・てしまう」は1点減点とする。なお、次項にある採点基準：「を」を格助詞「くを」の意味で解釈している場合、「くた」と訳しているものに限って許容する。

3. 「を」を「のに」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 逆接の確定条件：同意例：「が・けれども・のに・ものの」など

* 格助詞「くを」の意味で解釈しても可。この場合、前項に付記した採点基準を確認すること。

* 真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問。

* 字数制限無し。文末表現・句読点は不問。

③ 3点満点

1. 「おはし」を「いらっしゃる」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 「おいでになる」でも可。

2. 「て」を「くして」の意味に訳していなければ、1点減点。

* 「くして、それから…」の意が読み取れれば可。

3. 「必ずし聞き給へ」を「必ずしお聞きください」の意味に訳していなければ、**1点減点**。
- * 「給へ」を「尊敬」の意で訳しているかを見る。
 - * 「必ず」の要素が抜けている場合は不可。
 - * 「お聞きなさい」「聞きなさい」「聞きなされ」のような表現も可。
 - * 真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問。
 - * 字数制限無し。文末表現・句読点は不問。

問二 **5点**

- * 部分点なし。

問三 **12点満点**

1. 農法の説明として「草を土に混ぜ込む」という内容がなければ、**3点減点**。
2. 農法の利点として「稲がよく実る」という内容がなければ、**3点減点**。
 - * 「稲の成長に良い」のような表現も可。この農法をするのが「良い」とどまっている場合、**1点減点**とする。
3. 「名高い山吹を」という内容がなければ、**3点減点**。
 - * 「名高い」は「有名な・評判の」のような表現も可。
 - * 「名高い」の要素がなければ**1点減点**。「山吹」の要素がなければ**2点減点**。
4. 「(3を) 薊り取ってしまったこと」という内容がなければ、**3点減点**。
 - * 真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問。
 - * 文末表現が「〜こと・〜ことを言っている」などでなければ、**1点減点**。

問四 **12点満点**

1. 「登蓮はすぐさま行動に移した」という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 「登蓮」は「登蓮法師」でも可。この要素がなければ**1点減点**。
 - * 「すぐさま行動に移した」は「急いで出て行った」ことが読み取れれば可。「雨の降る中、急いで出て行った」「急いで（ますほの薄の詳細を知る）聖に会いに出て行った」のように具体化しても可。
 - * 「急いで・すぐさま」の要素がない場合、**1点減点**。
2. 「話に聞いた井手の蛙の声を聞きに出かけないまま三年を過ごす」という内容がなければ、**4点減点**。
 - * 「歌によく詠まれる」「井手の蛙」の声が、しみじみと風情があることを聞いて（筆者は）興味を覚えていたのに、井手を訪れることを果たさないまま三年も経ってしまった」という内容を表現できているかを見る。
 - * 「話に聞いた」は「噂に聞いていた」「耳にした」のような表現も可。この要素がない場合、**1点減点**とする。

- * 「井手の蛙」についての明示がない場合、**1点減点**とする。
 - * 「聞きに出かけないまま」は「井手を訪れないまま」のような表現も可。この要素がない場合、**1点減点**。
 - * 「三年を過ごす」は「三年経った」「三年も経ってしまった」のような表現も可。この要素がない場合、**1点減点**とする。
3. 「年老いて足が不自由である」という内容がなければ、**3点減点**。
- * 「年もとり、歩くのもままならない」という内容が読み取れれば可。
 - * 「年老いて」は「年をとって」「年もとり」「高齢になり」のような表現も可。
 - * 「足が不自由」は「歩くのがままならない」「歩行が思うようにならない」「歩行が困難」のような表現も可。
 - * 「年老いている」「足が不自由」のいずれか片方が欠けている場合、**1点減点**とする。
4. 「筆者は登蓮に比べて風流心が衰えている」という内容がなければ、**3点減点**。
- * 「風雅や情趣を求める心」が「衰えて希薄になっている」ことが読み取れれば、他の表現も許容する。この要素がなければ不可。
 - * 「登蓮に比べて」の内容が読み取れない場合、**1点減点**とする。
- * 理由を答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

問五 **2点**

- * 部分点なし。

三 (30点)

〈漢文 『韓非子』「喻老編」〉

解答

問一

① と

② こたえ(へ)て

③ およそ

④ ゆえ(ゑ)ん

問二

おくるればすなわ(は)ちしんにおよぼんとほつ(つ)し、さきんずればすなわ(は)ちしんにおよばるることをおそる。

問三

(ア) あなたの心はどうして馬と調和することができましようか、いや、できるはずはありません。

(イ) 白公勝は自分のあごのことさえ忘れるのだから、いったい何を忘れないだろうか、いや、すべてを忘れているのだろう。

問四

王子期に勝つことに関心が向きすぎて、馬と心を調和させるといふ馬車の操縦の基本を忘れたという過ち。(四八字)

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一 各1点 計4点

* 部分点なし。

* ②「こたえて」は「こたへて」も可。④「ゆえん」は「ゆゑん」も可。

問二 8点満点

1. 「後」を「**おくるれば**」としていなければ、1点減点。

2. (後則く)「**則**」を「**すなわち**」としていなければ、1点減点。

* 「すなはち」も可。

3. 「欲速臣」を「**しんにおよぼんとほっし**」としていなければ、2点減点。

* 「ほっし」は「ほつし」も可。

* 「およぼんと」の送りなを「**およぶを**」「**およぶことを**」としているものは1点減点とする。また、「ほつし」を終止形にして「**ほつす**」としているものは1点減点とする。

* 右に挙げた以外の要素については一箇所でも誤っていれば不可。

4. 「先」を「**さきんずれば**」としていなければ、1点減点。

5. (く先則く)の「**則**」を「**すなわち**」としていなければ、1点減点。

* 「すなはち」も可。

6. 「恐速於臣」を「**しんにおよばるることをおそる**」としていなければ、2点減点。

* 「**およばるる**ことを」は「**およばるるを**」でも可。

* 「**およばるる**ことを」は「**およばれん**こと」「**およばれむ**こと」でも可。

* 「**およばるる**ことを」を、受身であると理解はしているが、「**およばる**ことを」「**およばるを**」「**およばれる**ことを」「**およばれるを**」などと送り仮名を誤っているものは1点減点とする。

* 「おそる」を「おそれる」「おそるる」としているものは1点減点とする。

* 右に挙げた以外の要素については一箇所でも誤っていれば不可。

* 「すべて平仮名で」という条件を満たさず、一字でも漢字のままを書いている場合は全体不可。

問三

(ア) 5点満点

1. (主語の補いとして)「**あなたの心は**」という内容がなければ、1点減点。

- * 「心は（心が）」があれば「あなたの」の有無は不問。
- * 「あなたの」は「趙襄主の」「主君の」なども可。

2. 「何以」を「どうしてか、いや、くない」のように反語で解釈していなければ、**3点減点**。

- * 反語であることを理解し、それが表現できていれば可。

* 「くできる」「くはず」はなくても可。(例:「どうして馬と調和するだろうか、いや、しない」は可)

- * 丁寧表現の有無は問わない。

* 「どうしてくか」の部分がなく、「馬と調和することができない」「馬と調和しない」という結論部のみであるものも可。

* 「どうしてくか」の部分のみで、「いやくない」がないものは**1点減点**とする。

3. 「調於馬」を「馬と調和する」と解釈していなければ、**1点減点**。

- * 「馬に調和する」も可とする。

* 注にある「調和」という語を使わず、「馬と合う」「馬と合わせる」のような訳も許容する。

(イ) **7点満点**

1. (主語の補いとして)「白公勝は」という内容がなければ、**1点減点**。

- * 「白公は」「勝は」も可とする。

2. 「頤之忘」を「あごのことを忘れる」と解釈していなければ、**1点減点**。

- * 「あごを忘れる」の要素があれば可。「自分の」「さえ」などはなくても可。

* 「あごから血が出ていることを忘れる」「あごの血を忘れる」「あごに杖がささっていることを忘れる」のように詳しく書いていても可。

* 模範解答例のように「くだから」などで文を以下に接続せず、「あごのことさえ忘れる」、「あごのことを忘れる。」のように文を切っても可。

3. 「将」を「いったい」と解釈していなければ、**1点減点**。

- * 「はたして」「また」という訳も可。

- * 「はた」とした場合は不可。

4. 「何」を「何を」と訳していなければ、**2点減点**。

* この「何」は原因を尋ねる疑問詞(なんぞ)ではなく、「忘れる」の目的語が何であるかを尋ねる疑問詞であることが理解できている答え方なら可。「どんなことを」「どういうことを」も可。

- * 「どうして」「なぜ」のように、原因理由を尋ねる疑問詞にしている場合は不可。

5. 「何不忘哉」について) **反語の意味**で訳していなければ、**2点減点**。

- * 「忘れないのか、いや、すべてを忘れる」の意であれば可。「だろう」の有無は問わない。

(「すべてを」は、同意であれば可。)(「何でも」「あらゆることを」なども可。)(

- * 「忘れるか、いや、すべてを忘れる」と、疑問部分の「ざる」を訳し忘れるミスをしている場合は**2点減点**とする。
- * 「反乱以外のすべてを忘れる」も可。
- * 「すべてを」の要素が欠けており、「忘れないだろうか、いや、忘れる」のようになっていいるものは、**1点減点**とする。
- * 疑問の部分のみで、「いや、くない」の部分がなものは**2点減点**とする。
- * 疑問の部分がなく、「すべてを忘れている（だろう）」のみのものは可。

問四

6点満点

1. 「智遠きに周ければ」の説明として「**王子期に勝つことに関心が向きすぎて**」という内容がなければ、**3点減点**。
 - * 「(自分の馬でなく) 王子期との勝負に関心が向いていた」という内容であれば可。「王子期」の名はなくてもよい。
 - * 「勝負にこだわりすぎて」「王子期に追いつくことや追いつかれることばかり気にして」なども可。ただし、「王子期に追いつくことを気にして」「王子期に追いつかれることを気にして」のように、「追いつく」「追いつかれる」のどちらか一方しかないものは**1点減点**とする。
2. (忘れていたことの具体化として)「**馬と心を調和させる**ということ**を忘れた**」という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 「馬と心を合わせる」と「**馬と心を調和させる**」などでも可。
 - * 「心」がなく「馬と調和する」であっても可。
 - * 「馬体を安定させること」を書き加えても可。ただし「馬との心の調和」という要素がなく、「馬体の安定」のみしか書いていない場合は**1点減点**とする。
3. (2の一般化として)「**馬車の操縦の基本を忘れた**」という内容がなければ、**1点減点**。
 - * 「馬車の操縦」の要素はなくても可。
 - * 「操縦」は「運転」「操る」「走らせる」なども可。
 - * 「馬車の操縦」は「馬を操る」の意であっても可。
 - * 「基本を忘れた」「最も重要なことを忘れた」という内容であれば可。